

参考資料5 教育内容の公表に関する取組例

インターネットを活用した情報公表（オープンコースウェアの例） （福原委員からの報告の概要）

1. 経緯

オープンコースウェア（以下、「OCW」）は、2001年に米国マサチューセッツ工科大学（以下、「MIT」）が提唱したものである。

日本では、6大学による連絡組織をもとに、2006年に日本オープンコースウェア・コンソーシアム（以下、「JOCW」）が設立された。現在、42機関が参加している。

2. 基本的考え方

OCWの基本的考え方は、2001年にMITが発表した形態に基づいており、その内容は以下のとおり。

- ・大学で正規に提供された講義の実体を提供すること
- ・提供されたコンテンツは非営利かつ教育目的利用に限定して、無償での利用・複製・再配布・翻訳を含む変更を認めること
- ・利用者からの質問・問い合わせなどへの対応は行わないこと
- ・最低限の構成要素は、「シラバス」「カレンダー」「講義ノート」であること

3. 公表と利用の現状

35カ国で、計18,000コース以上が公開されている。日本では、1,800を超えるコースが公開されており、月間の訪問者数が約40万人となっている。

（参考）MITにおける利用状況

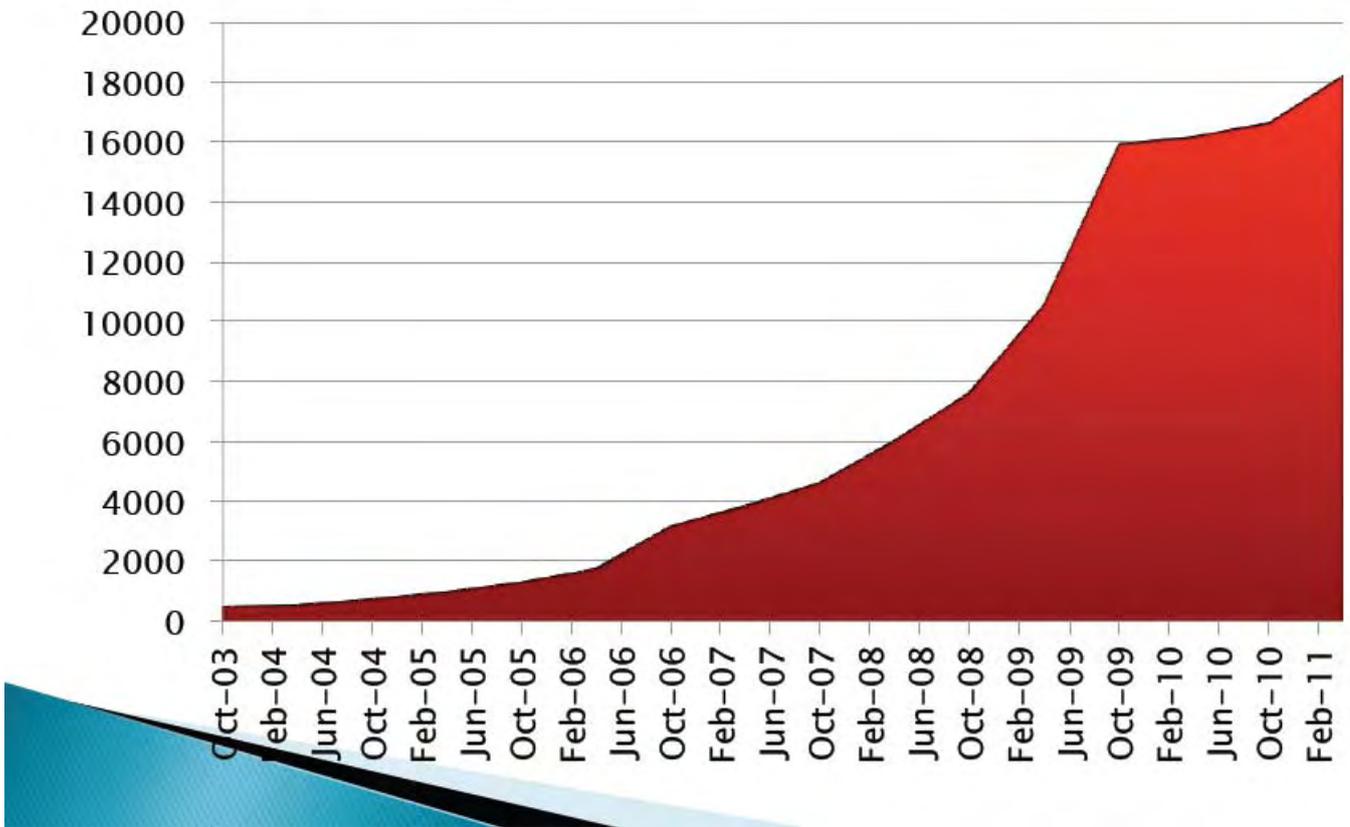
- ・月間訪問者数：約200万人
- ・MITへの入学選択にOCWが影響したと回答した新入学生：35%
- ・在学者の90%、卒業生の50%が利用
- ・OCWをきっかけに教員の30%が講義を改善、84%が他の教員の講義内容を活用
- ・学生の70%が履修科目のOCWの情報を見ている

4. 日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW)によるアンケート調査

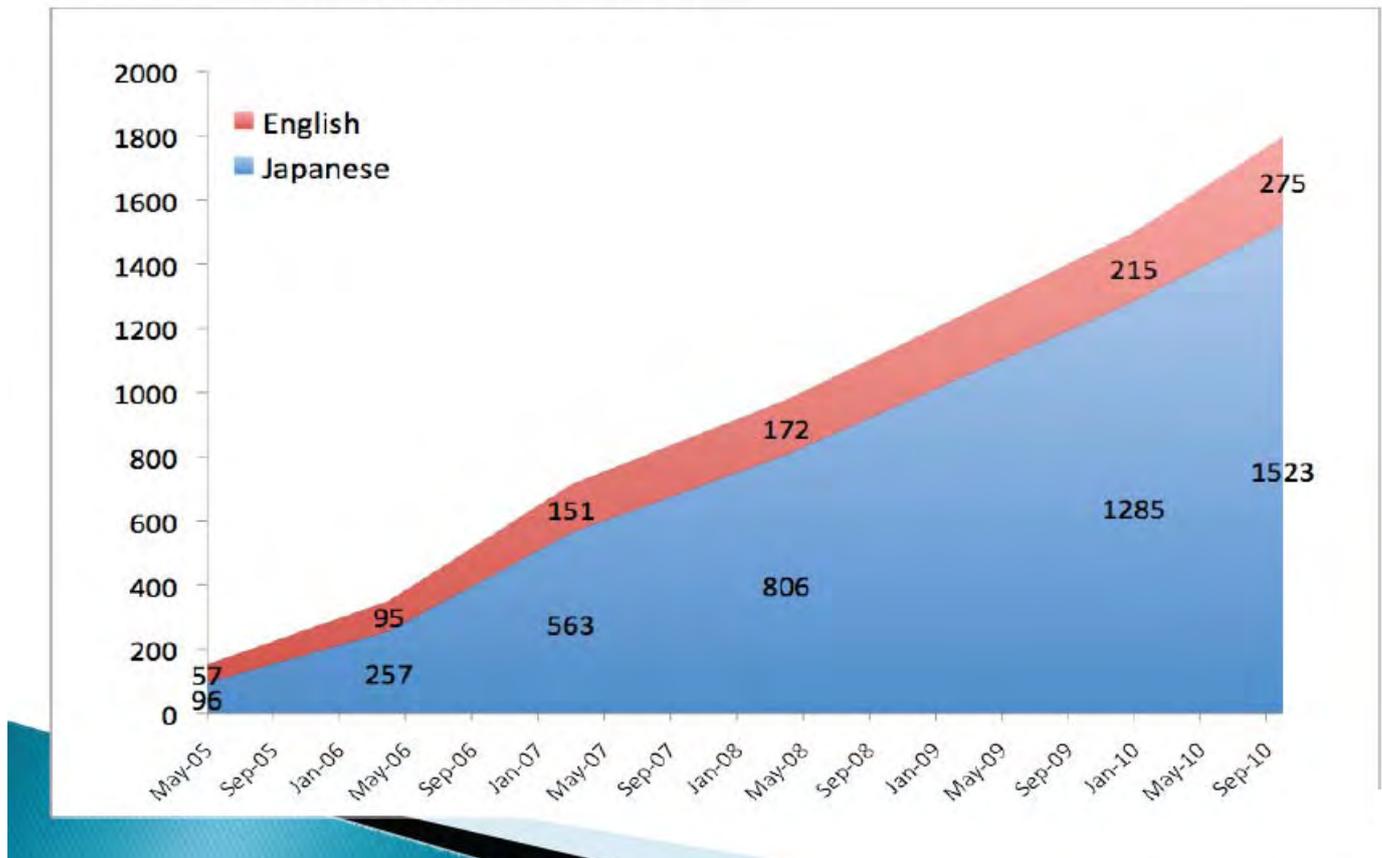
JOCWでは、OCWに関するインターネット調査を実施している（10代～60代までの1,200人が回答）。

- ・OCWの利用経験者 5%
- ・今後、利用する意向がある人 63.7%
- ・閲覧する講義を選択する際に参考とする情報
「関連する講義の紹介機能(47.6%)」「利用者による具体的なコメント(43.7%)」
- ・居住地近くの大学が実施する公開講座をインターネットの動画で見たいか。
「見たい(29%)」「どちらかといえば見たい(50%)」

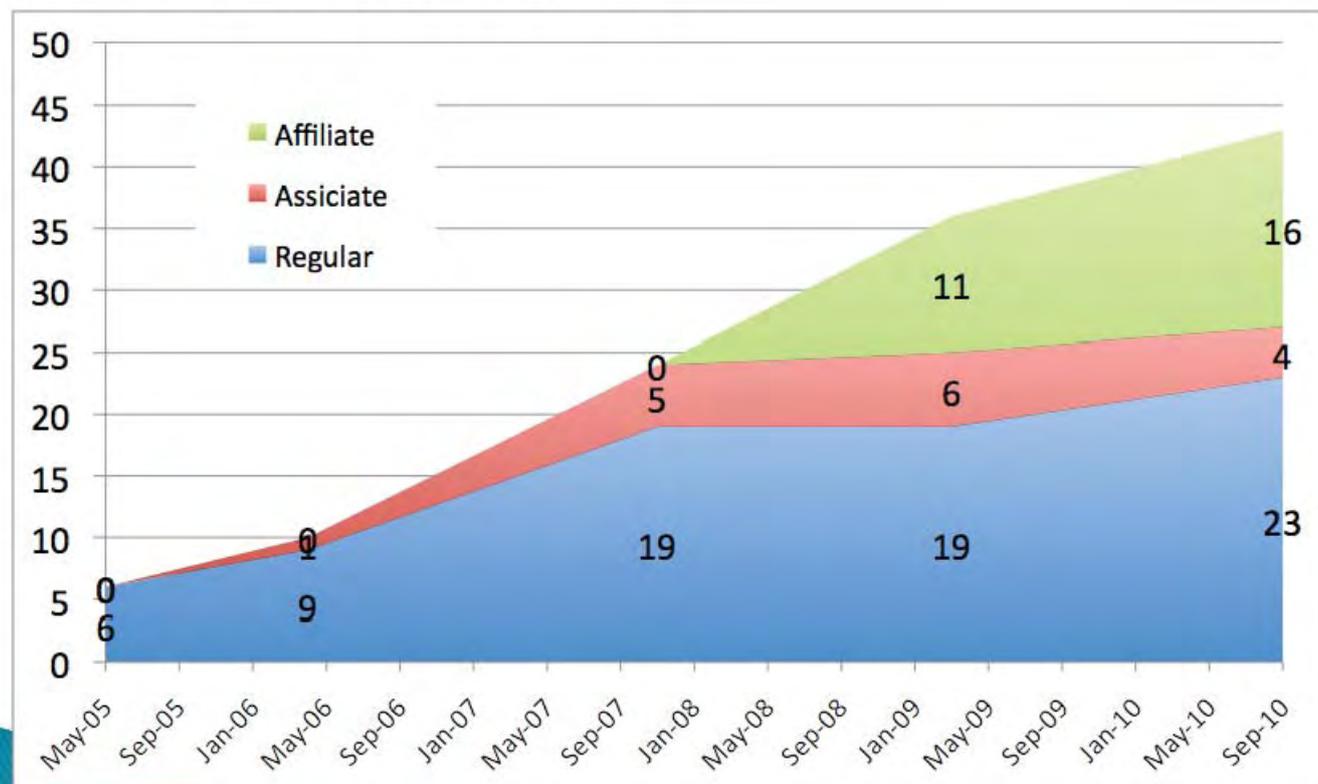
世界のOCW公開コース数



JOCW総公開コース数



JOCW会員数の推移



JOCW加盟組織 (年度毎)

年度	組織名 (黒文字：大学、緑文字：非営利組織、青色：企業)
2005	大阪大学、京都大学、慶應義塾大学、東京工業大学、東京大学、早稲田大学、九州大学、名古屋大学、北海道大学、メディア教育開発センター
2006	関西大学、筑波大学、同志社大学、京都精華大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学 AVCC、CCC-TIES、日本イーラーニングコンソーシアム
2007	女子栄養大学、明治大学、国連大学、クリエイティブコモンズジャパン、朝日新聞デジタルメディア局、NTTレゾナント、東京電機大学出版局、メディアサイト、シーディーネットワークスジャパン、メディアリンク、デジタルナレッジ
2008	国際基督教大学、千葉大学、徳島大学uラーニングセンター、内田洋行、キャストリア、グローバルコモンズ、NTTドコモ
2009	放送大学、法政大学、関西学院大学、映像システム、ソフトバンクBB、セレゴジャパン
2010	上智大学、CMSコミュニケーションズ

大学については全て大学単位 (学長名) での加盟
太字は幹事大学